

平成 31 年 1 月 23 日 (水曜日)

スラウェシ島地震

復興支える日本の技術

足立議員が現地調査

建 通 新 聞



被災地を視察する足立氏（左から2人目）
と多田氏（左端）、早川氏（右から2人目）

参院議員の足立敏之氏が、昨年9月に地震・津波の被害を受けたインドネシアのスラウェシ島を視察した。同島のパル市では、地震に伴う液状化で地盤の大規模流動が発生し、死者・行方不明者が3500人以上に上る甚大な被害が発生。現地政府に派遣されている日本人技術者と被災地を調査した足立氏は「復旧・復興を日本の技術者が支えている。できる限り支援していきたい」とエールを贈った。

1月5・6日の2日間で、被災現場を調査した。昨年9月28日にスラウェシ島を襲った地震では、幅1キロ、長さ2・5キロの範囲で液状化が発生。1000戸を超える家屋が破壊されたり、流動化した土砂に飲み込まれた。

不透水層に挟まれ、圧力を受けている「被圧地下水」の流出が原因と

みられる洪水も発生し、被害を拡大させた。足立氏は「被圧地下水が原因で発生する洪水というのは、これまで聞いたことがない」と驚く一方、液状化に伴う大規模流動という現象も世界的に見ても珍しく「日本もスラウェシ島と同じ平野や扇状地が多い。こうした現象が起きる可能性はある」と警鐘を鳴らす。

調査には、国交省から国際協力機構（JICA）に出向し、現地政府に派遣されている早川潤氏と多田直人氏が同行。地震発生から3カ月が経過したが、被災地では仮設住宅の建設などがようやく始まった段階にある。両氏は今回の災害の発生メカニズムの解明や今後の復旧・復興計画の策定に携わっており、足立氏は「日本の技術が頼られている証だ。この地域の復旧・復興に尽力してほしい」と話した。